

さんようおのだ

銀麗

《第61号》

■ 編集発行 ■

(公社) 山陽小野田市
シルバー人材センター
会報編集委員会

山陽小野田市中川2丁目4-16
TEL (0836) 84-0448
FAX (0836) 84-0667



物見山公園（厚狭）の菖蒲園と菖蒲の株分け作業



目次

定時総会の開催、理事長挨拶	2	発注者アンケート結果	5
市長・議長への支援要請	3	会員のひろばほか	6
発注者アンケート結果	4		

平成30年度 定時総会を開催

6月1日午後1時30分から中央図書館視聴覚ホールにおいて、平成30年度定時総会を開催しました。第1部の講演内容や第2部の総会の決議事項等は「事務局だより(第301号)」でお知らせしたとおりです。



(中央図書館視聴覚ホール)

総会理事長挨拶

皆様こんにちは。

公益社団法人山陽小野田市シルバー人材センターの平成30年度定時総会に当たりごあいさつ申し上げます。

本日は、市民館改修工事のため、初めて、ここ図書館での開催となりました。少し手狭ではございますが、最後までどうぞよろしくお願ひします。

私は昨年の定時総会において理事就任と相成りましたが、その後の理事会において理事長就任が決定し、中里前理事長の後を引き継いだ藤本と申します。

皆様方に対する直接的なご挨拶は、初めてですが、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて、本日の総会にあたり、ご来賓の方々にお越しいただいております。この総会に、公私ともたいへんご多忙にもかかわらず、ご臨席を賜りました山陽小野田市市長藤田剛二様、山陽小野田市議会議長小野泰様、山口県宇部県民局長磯村昭二様、公益社団法人山口県シルバー人材センター連合会会長大田良充様、皆様方には厚くお礼申し上げます。また、ご来賓の皆様には、平素から格別なるご指導、ご支援を賜っておりますこと、この場をお借りしまして重ねてお礼申し上げます。

ところで、昨年は、当センターが昭和62年10月に発足してから創立30周年という記念すべき年を迎えることができました。30周年記念行事として、記念誌の発行をいたしました。みなさん見ていただけただでしょうか。今日、当センターが存続できているのは、

ひとえに幾多の先輩会員や現役会員の不断の努力と、山口県シルバー人材センター連合会や市をはじめ関係機関のご支援とご指導、さらには地域社会の皆様のご理解の賜物と深く感謝しているところであります。言うまでもなく、近年の高齢者人口の増加、労働力人口の減少が進む中、保育サービス分野、介護周辺業務などに関して高齢者の人材活用を促進することが掲げられております。このような状況で、市が事業主体として実施する「介護予防・日常生活支援総合事業」で、新たに家事援助サービス事業として事業実施することとなり、市と契約する運びとなりました。室内清掃が主体となりますが、この事業を実施するにあたり、特に、女性会員の参加が必要となりますので、我もと思われる方は事務局にお尋ねください。このように、地域の活力を維持していくためにも、地域における豊かな経験と知恵のある高齢者の受け皿となるシルバー人材センターは、益々大きな役割を期待されるとともに、高齢者が共に助け合い、それまで培った経験を生かしたり、新たな就業に挑戦したりしながら、労働能力を発揮し、社会参加することが、自分自身の生きがいにつながると思っております。

さて、議案書にもありますとおり、後ほど事業報告、決算報告等

いたしますが、昨年度につきましては、事業的には、28年度と比べると、受注件数で130件減、契約金額で約7百20万円減となりました。しかし、支出を抑えた結果、収支的には約51万円の黒字となりました。この黒字部分については、公益社団法人として、収支相償しなくてはなりませんので、今年度解消することとなります。過去5年を見ましても、順調に推移しておりましたが、会員数、契約額とも下降気味で、今後は、ますます厳しくなることが予想されます。そこで、会員獲得や、仕事の受注など、会員皆様方のご支援が必要となりますので、今まで以上によろしくご協力をお願いしたいと思います。

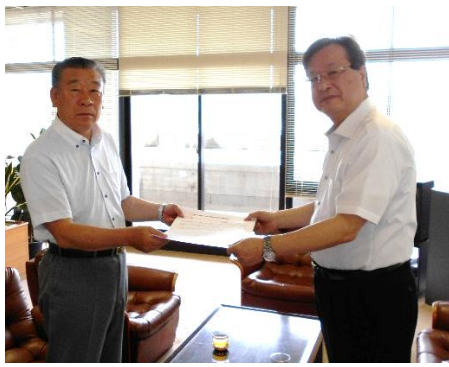
本日の総会は、議案書にあるとおり4議案を上程しております。ご審議の上、ご承認いただきませうようお願い申し上げます。終わりに、会員皆様のご健勝とご活躍、さらにはご多幸を祈念いたしました。開会にあたってのご挨拶といたします。

平成30年6月1日

公益社団法人
山陽小野田市シルバー人材センター

理事長 藤本賢揮

市長及び市議会議長に支援要請



議長に支援要請



市長に支援要請

7月31日、市長及び市議会議長にシルバー人材センターに対する支援要請を行いました。要請内容は次のとおりです。

【要請内容】

「生涯現役社会」を実現するシルバー人材センターの決意と支援の要請

我が国においては、少子高齢化が進み人口が減少している中で成長力を確保していくために、働く意欲と能力のあるすべての高齢者が年齢にかかわらず活躍し続けることができる「生涯現役社会」を実現することがますます重要となっています。

このような中で、シルバー人材センターは地域の日常生活に密着した就業機会を提供するなどにより、高齢者の「居場所」と「出番」をつくり、「生涯現役社会」の実現を果たす役割を担っており、併せて、高齢者の生きがいの充実、社会参加の促進を實行し、地域社会の活性化と医療費や介護給付費の削減に寄与しているところです。

昨年三月に働き方改革実現会議が決定した「働き方改革実行計画」においても、「健康づくりやフレイル対策を進めつつ、シルバー人材センターやボランティアなど、高齢者のニーズに応じた多様な就業機会を提供する」とされており、シルバー人材センター事業の果たす役割の重要性と地域社会の期待は一層大きなものとなっています。

こうした中、シルバー人材センター事業の発展・拡充は、国の施策の実現や地域社会の期待に応えるために喫緊の課題であります。このため、平成三十年度から平成三十六年度までの七年間を期間とする「第二次会員百万人達成計画」を策定したところであり、これに基づき、平成三十二年度までに八十万人、そして、平成三十六年度には、会員百万人を目標して、会員増加の取組みを一段と強めて参ります。

さらには、シルバー人材センターは「自主・自立、共働・共助」という理念のもと、国及び地方自治体の施策、地域ニーズに対応し、

- ① 介護保険制度改正に伴う介護予防・日常生活支援総合事業などの支援高齢者に対する事業
 - ② 子育て中の現役世代や子供たちへの支援事業
 - ③ 人手不足の地元企業に向けたシルバー派遣等の事業
 - ④ 空き家管理、遊休地を活用した農園事業などの事業
- を重点に取り組んで参ります。

また、労働者派遣又は職業紹介での働き方において、都道府県知事が指定する業種・職種について週四十時間まで就業が可能となった特例措置を有効的に活用し、現役世代の支えや人手不足分野での労働力確保

に貢献するとともに、適正就業ガイドラインを遵守し、地域社会の維持・発展と就業意欲の高い高齢者の受け皿としての役割を果たして参ります。

つきましては、平成三十一年度のシルバー人材センター事業の推進のために必要なセンターに対する補助金等の確保を要望いたします。

特に、国においては一般会計を財源とする補助金の確保、また、都道府県・市区町村においては国の補助金と同額以上の補助金の確保、さらには、センターに対する市区町村等の公共からの事業発注の確保について、強く要望いたします。

また、シルバー人材センターの多くは、事業規模が小さく財政的には不安定であり、経済変動などによりたちまち財政難に陥る危機を孕んでいます。公益法人が事業を継続的に安定的に運営できるように、「特定費用準備資金」について、剰余金を赤字年度及び災害等、将来の収支変動に備えた資金や運転資金として積み立てることを可能とする見直しを、強く要望いたします。

平成三十年七月三十一日

公益社団法人

全国シルバー人材センター事業協会

公益社団法人

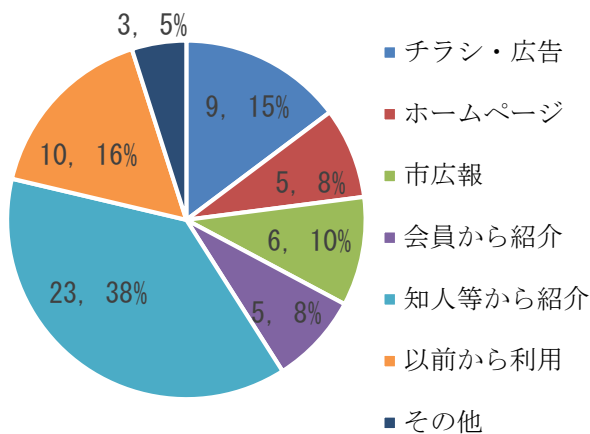
山陽小野田市シルバー人材センター

発注者アンケート結果

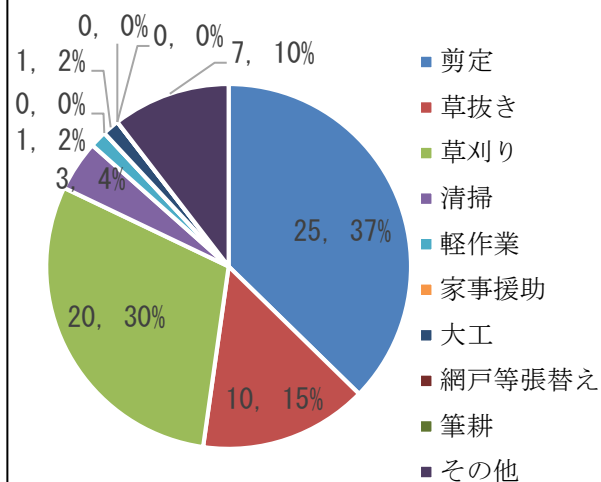
平成29年度中に当センターへ仕事の依頼をされた発注者様の中から184名（団体）を対象に平成30年3月にアンケートを実施し、50名（団体）様からご回答をいただきました（回収率：42%）。アンケート結果を集計しましたので、次のとおりお知らせします。好意的な意見が多数を占めました。事務局として検討・配慮すべきことが多々あることに気づかされました。

なお、グラフ内の数値の見方は、例えば、右の「1 利用のきっかけ／複数回答」の「チラシ・広告」の「9, 15%」は「9」が回答数で、「15%」がその回答の回答全体に占める割合となっています。

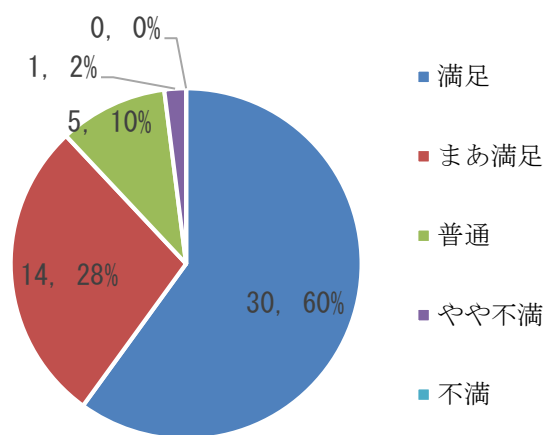
1 利用のきっかけ／複数回答



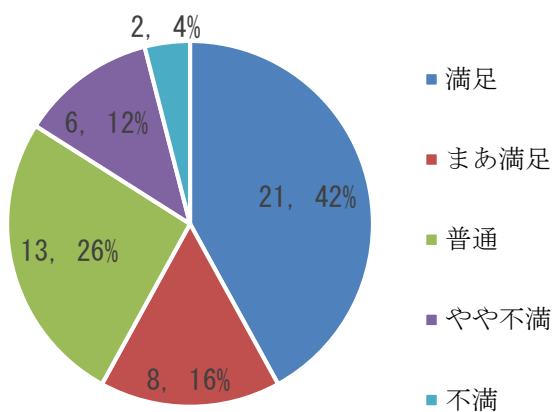
2 依頼した仕事／複数回答



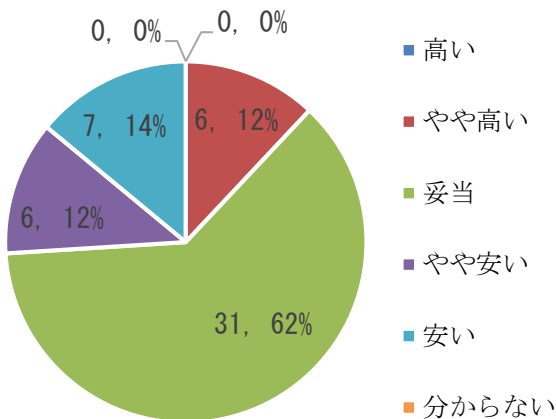
3 仕事内容に対する満足度



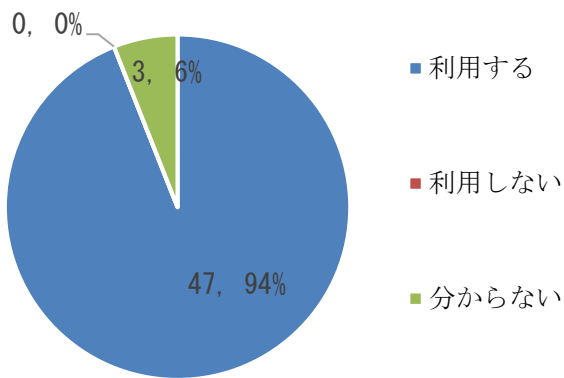
4 仕事の受付対応



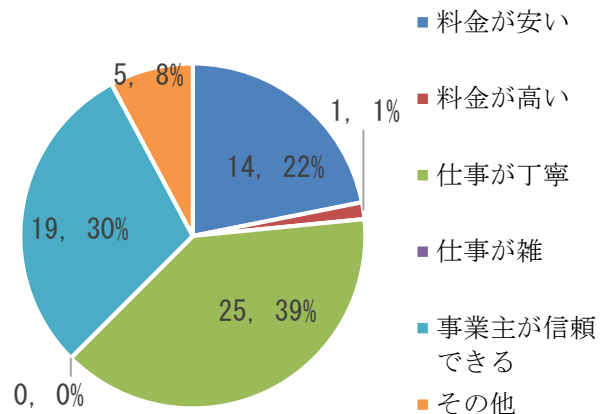
5 料金



6 今後の利用の有無



7 利用有無の理由／複数回答



発注者アンケート結果について

1 利用のきっかけ／複数回答

「知人等からの紹介」が最も多く38%となっています。口コミの宣伝力は大きいなと思いました。「知人等」の中に会員さんも入っているのかもしれませんが、「会員からの紹介」が8%ですので、会員さんから積極的なシルバーの 口コミ 宣伝をお願いします。

2 依頼した仕事／複数回答

「その他」として伐採、コメの袋詰め等がありました。

3 仕事内容に対する満足度

「満足」と「まあ満足」を合わせると88%で、9割強の発注者様にご満足いただいているようですが、「やや不満」との回答で「依頼していないことがされていた。」とありました。仕事の実施範囲等で発注者様と意思疎通がうまくいかなかったものと思われます。お互いによく確認するよう努めましょう。

4 仕事の受付対応

「満足」と「まあ満足」を合わせると58%で、過半数を超えていますが、「不満」と「やや不満」の合計が16%にもなります。その理由としては、「後日するとの電話がなかった。」、「作業日の事前連絡がなく、いきなり作業が行われた。」、「対応が遅い。」、「電話での対応が不親切」等あり、特に、事務局として反省することが多く、今後のより良い対応に努めたいと思います。

5 料金

「妥当」が62%と最も多く、「安い」、「やや安い」と合わせると88%になり、9割弱

の発注者様の納得が得られているようです。

6 今後の利用の有無

「利用する」が94%で、「利用しない」はありませんでした。9割強の発注者様がリピーターになっていただけるようです。

7 利用有無の理由／複数回答

「6 今後の利用の有無」の回答理由を問うものです。利用する理由で最も多いものは、「仕事が丁寧」(39%)でした。会員さんの仕事への熱意や使命感の結果だと思えます。会員さんを誇りに思うとともに、日頃のご尽力に感謝いたします。2番目に多かったのが「事業主が信頼できる」(30%)というもので、事務局としてたいへん嬉しく思います。今後も、「親切」、「丁寧」、「安心」のシルバーブランドを会員さんとともに大切に守っていきたいと思います。3番目に多かったのが「料金が安い」(22%)ですが、これは「安い」というより「値ごろ感がある」ということだと思います。「その他」(8%)の理由や全体的な自由意見欄には、「料金も安く、仕事も丁寧だが、仕事の依頼から実施されるまでの期間が長すぎる。」、「実施までの期間が長いので、だいたいの実施日を知りたい。」、「仕事の依頼を忘れないでほしい。」、「担当者を明確にしてほしい。」、「料金表があった方が依頼しやすい。」等の意見がありました。いずれも貴重な意見で、検討する必要がある課題だと思います。会員さんの仕事やシルバーブランドの評価を下げるのではないよう、これらの意見を参考に、より良いサービスの向上に努めたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

会員のひろば

俳句・川柳

殖生 殖生 一お

菜の花と 桜のコラボ 竜玉山

春嵐 花びら集め 子らの舞

花筏 今は昔の 愛や恋

腰痛に 耐えて歩くや 夏木立

何思う 梅雨の図書館 二人連れ

鴨庄 益山 英之

ポケットの 小銭駅まで

鳴り続け

どんぐりも それぞれ自己を 主張する

俳句、川柳、短歌、詩、エッセー、写真などを会報で発表してみませんか。会員さんの積極的なご応募をお待ちしています。

第2次会員百万人達成計画

全国のシルバー人材センターの会員数は約72万人で、その内訳は男性約48万人、女性約24万人となつ

ています。

シルバー人材センターの会員数は、昭和55年に4万6千人が、「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」が施行された昭和61年に12万9千人と年々増加してきましたが、65歳までの雇用義務化などもあつて、平成21年度の79万2千人をピークに減少に転じ、平成26年度以降は横ばいとなっています。

公益社団法人全国シルバー人材センター事業協会（全シ協）では、「日本の高齢化の現状及び今後の見通し（47年後には、①日本の総人口が9千万人を割り込み、②約2・6人に1人が65歳以上の高齢者となり、③1・3人の現役世代で1人の高齢者を支えると推計）」を見据えてシルバー人材センターの目指す姿（①地域のニーズに 대응することで、地域で頼りにされる存在になる②仕事を通して人の喜ぶ顔が見え、会員が誇りを持てる③自分にあつた仕事で、経験を活かし、能力を発揮することができ

センターが平成30年度から32年度までの3年間で、毎年の会員数を対前年度比で3・9%増加させ、全国総計で80万人にし、続く平成33年度から36年度までの4年間で毎年5・8%増加させて、会員100万人を達成しようとするものです。

この計画によると、当センターの会員数目標は、平成29年度末が480人だったので、平成30年度500人、32年度540人、そして最終年度の36年度は680人となります。当センターも全国的な傾向と同様、平成26年度の504人（男性364人、女性140人）をピークに会員が減少しており、平成30年7月末現在では、462人（男性338人、女性124人）で、年度当初から18人の減少となつています。また、年度目標からは38人の減少で、目標達成はたいへんハードルが高いものとなつていますが、会員増加と就業先拡大は互いにリンクしており、一方が欠けてもシルバー事業拡大の好循環は図れません。現に、県内景気は、ゆるやかに回復しているように、6月の有効求人倍率は、1・57（全国1・62）となつており、当

編集後記

センターにも求人が種々ありますが、会員不足のため、それに応えることができない場合が生じています。

シルバー人材センターの目指す姿の実現と事業拡大を図るため、会員さんと事務局が知恵を出しあい、一丸となつて会員増強に努めなければなりません。ご協力よろしくお願いいたします。

平成30年度の定時総会が終了し、会報編集委員の任期も満了しましたので、新たに後述の四名が、委員に就任することとなりました。任期は平成32年度（元号が変わつているとは思いますが・・・）の定時総会終了までです。前任の委員同様、「銀麗」が会員の皆様に親しまれるものとなるよう紙面づくり頑張つていきたいと思つています。どうぞよろしく願ひいたします。

会報編集委員	
委員長	山本 洋吾
副委員長	田中 孝子
委員	長谷 敏夫
委員	藤村 安彦

